

デーヴォ ガイド



2023.3.13-19

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

➤ 13日 月曜

I サムエル



22:1 ダビデはそこを去って、アドラムの洞穴に避難した。彼の兄弟たちや父の家の者はみな、これを聞いてダビデのところを下って来た。

22:2 そして、困窮している者、負債のある者、不満のある者たちもみな、彼のところに集まって来たので、ダビデは彼らの長となった。約四百人の者が彼とともにいるようになった。

22:3 ダビデはそこからモアブのミツバに行き、モアブの王に言った。「神が私にどのようなことをされるか分かるまで、どうか、父と母をあなたと一緒に住まわせてください。」

22:4 ダビデは両親をモアブの王の前に連れて来た。彼らは、ダビデが要害にいる間、王のもとに住んだ。

22:5 預言者ガドはダビデに言った。「この要害にとどまっていなくて、さあ、ユダの地に帰りなさい。」それで、ダビデはそこを出て、ハレテの森へやって来た。

22:6 サウルは、ダビデおよび彼とともにいる者たちが見つかったことを聞いた。サウルはギブアにある高台のタマリスクの木の下で、槍を手にして座っていた。彼の家来たちはみな、彼のそばに立っていた。

22:7 サウルは、そばに立っている家来たちに言った。「聞け、ベニヤミン人。エッサイの子が、おまえたち全員に畑やぶどう畑をくれたり、おまえたち全員を千人隊長、百人隊長の長にしたりするだろうか。」

22:8 それなのに、おまえたちはみな私に謀反を企てている。息子がエッサイの子と契約を結んでも、だれも私の耳に入れない。おまえ

たちのだれも、私のことを思って心を痛めることをせず、今日のように、息子が私のしもべを私に逆らわせて、待ち伏せさせても、私の耳に入れない。」

22:9 サウルの家来たちのそばに立っていたエドム人ドエグが答えて言った。「私は、エッサイの子が、ノブのアヒトブの子アヒメレクのところに来たのを見ました。」

22:10 アヒメレクは彼のために【主】に伺って、彼に食糧を与え、ペリシテ人ゴリヤテの剣も与えました。」

ダビデは不自由で不安な逃亡生活でしたが、「困窮している者、負債のある者、不満のある者たち」をも受け入れました。自分が大変なときでも人々を省みるのが信仰者です。後にダビデを大いに助けた三勇士はこのときダビデの下に来た者たちです。教会もこうありたいものですが、それは方針や活動というよりも1人1人の信仰と愛にかかっています。

またダビデは預言者の進言を聞き入れ、ユダにもどります。それは危険なことでしたが、結局はアヒメレクが捕えられたときには近くにいなかったわけで、自分を助けたことになりました。愛と主のみこころ（と思われる信仰者の助言）を行うとき、主は必ず最善をなしてください。

一方サウルは自分のことしか考えず、息子も家来も心が全く離れてしまいました。しかし彼は反省することもなく、「誰も私のことを思って心を痛めない。」と、自己憐憫に陥っています。孤立してしまったときは、自分をかわいそうと思う前に、主への従順から起きたことか、それとも自分に非があったのかを考えることも必要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 14日 火曜

I サムエル

22:11 王は人を遣わして、祭司アヒトブの子アヒメレクと、彼の父の家の者全員、すなわち、ノブにいる祭司たちを呼び寄せた。彼らはみな、王のところに来た。

22:12 サウルは言った。「聞け、アヒトブの子よ。」彼は答えた。「はい、王様。ここにあります。」

22:13 サウルは彼に言った。「おまえとエッサイの子は、なぜ私に謀反を企てるのか。おまえは彼にパンと剣を与え、彼のために神に伺い、そうして彼は今日のように私に逆らって待ち伏せしている。」

22:14 アヒメレクは王に答えて言った。「あなたの家来の中に、ダビデほど忠実な者が、だれかいるのでしょうか。ダビデは王の婿であり、あなたの護衛兵の長であり、あなたの家で重んじられているではありませんか。」

22:15 私が彼のために神に伺うのは、今日に始まったことでしょうか。決して、そんなことはありません。王様。このしもべや、父の家の者全員に汚名を着せないでください。あなたのしもべは、この事件について、いっさい知らないのですから。」

22:16 王は言った。「アヒメレク、おまえは必ず死ななければならぬ。おまえも、おまえの父の家の者全員もだ。」

22:17 王は、そばに立っていた近衛兵たちに言った。「近寄って、【主】の祭司たちを殺せ。彼らはダビデにくみし、ダビデが逃げているのを知りながら、それを私の耳に入れなかったからだ。」しかし王の家来たちは、

【主】の祭司たちに手を下して討ちかかろうとはしなかった。



22:18 王はドエグに言った。「おまえが行って祭司たちに討ちかかれ。」そこでエドム人ドエグが行って、祭司たちに討ちかかった。その日彼は、亜麻布のエポデを着ていた人を八十五人殺した。

22:19 彼は祭司の町ノブを、男も女も、幼子も乳飲み子も、剣の刃で討った。牛もろばも羊も、剣の刃で。

22:20 アヒトブの子アヒメレクの息子のエブヤタルという名の人が、一人逃れてダビデのところに逃げて来た。

22:21 エブヤタルはダビデに、サウルが【主】の祭司たちを殺したことを告げた。

22:22 ダビデはエブヤタルに言った。「私はあの日、エドム人ドエグがあそこにいたので、彼がきっとサウルに知らせると思って、私が、あなたの父の家の者全員の死を引き起こしたのだ。」

22:23 私と一緒にいなさい。恐れることはない。私のいのちを狙う者は、あなたのいのちを狙う。しかし私と一緒にいれば、あなたは安全だ。」

ダビデは神様が王として立てられたサウルの権威を否定することはありませんでした。しかし、それはあくまでも神様に従うゆえの信仰です。一方ドエグは王に従順でしたが、神様を考えなかったことで、王の大罪に加担することになりました。この世の権威や秩序に従うことは必要ですが、神様の正しいみこころに反してはならないのです。

ダビデはアヒメレクが殺されたことで心を痛めますが、情に流されることなく、今出来る最善のことをしようとします。アヒメレクとそのエブヤタルも、ダビデを逆恨みすることはありませんでした。悪に加担することはしないと、信仰で決心していたからでしょう。ダビデのように主のため

に生きる者には、必ず主のために犠牲をもいとわない協力者が与えられるものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 15日 水曜

I サムエル



23:1 「今、ペリシテ人がケイラを攻めて、打ち場を略奪しています」と言って、ダビデに告げる者がいた。

23:2 ダビデは【主】に伺って言った。「行って、このペリシテ人たちを討つべきでしょうか。」【主】はダビデに言われた。「行け。ペリシテ人を討ち、ケイラを救え。」

23:3 ダビデの部下は彼に言った。「ご覧のとおり、私たちは、ここユダにいてさえ恐れているのに、ケイラのペリシテ人の陣地に向かって行けるでしょうか。」

23:4 ダビデはもう一度、【主】に伺った。すると【主】は答えられた。「さあ、ケイラに下って行け。わたしがペリシテ人をあなたの手に渡すから。」

23:5 ダビデとその部下はケイラに行き、ペリシテ人と戦い、彼らの家畜を奪い返し、ペリシテ人を討って大損害を与えた。こうしてダビデはケイラの住民を救った。

23:6 アヒメレクの子エブヤタルは、ケイラのダビデのもとに逃げて来たとき、エポデを携えていた。

23:7 一方、ダビデがケイラに来たことがサウルに知らされると、サウルは、「神は彼を私の手に渡された。彼は扉とかんめきのある町に入って、自分自身を閉じ込めてしまったのだから」と言った。

23:8 サウルは、ケイラへ下ってダビデとその部下を攻めて封じ込めるため、兵をみな召集した。

23:9 ダビデは、サウルが自分に害を加えようとしているのを知り、祭司エブヤタルに言った。「エポデを持って来なさい。」

23:10 そしてダビデは言った。「イスラエルの神、【主】よ。しもべは、サウルがケイラに来て、私のことで、この町を破壊しようとしていることを確かに聞きました。

23:11 ケイラの者たちは私を彼の手に引き渡すでしょうか。サウルは、しもべが聞いたとおりに下って来るでしょうか。イスラエルの神、【主】よ。どうか、しもべにお告げください。」【主】は言われた。「彼は下って来る。」

23:12 ダビデは言った。「ケイラの者たちは、私と私の部下をサウルの手に引き渡すでしょうか。」【主】は言われた。「彼らは引き渡す。」

23:13 ダビデとその部下およそ六百人は立って、ケイラから出て行き、そこここと、さまよった。ダビデがケイラから逃れたことがサウルに告げられると、サウルは討伐をやめた。

23:14 ダビデは、荒野にある要害に宿ったり、ジフの荒野の山地に宿ったりした。サウルは、毎日ダビデを追い続けたが、神はダビデをサウルの手に渡されなかった。

ダビデは危機にあるにも関わらず、ケイラを助けました。まさに愛の行いです。主の御心は余裕があるときだけでなく、自分が大変なときこそ行うべきもので、そこに本当の愛が表され、主のみわがが進みます。

ただしダビデは、ある種のヒロイズムでそれを行ったのではなく、あくまでも主の御心を聞いて行いました。そこに信仰の行いがあります。また主の守りがあるのです。

ケイラの人々は結局ダビデを裏切りました。この世の価値観からすれば、何のために助けたのか、それは無駄なことだったということになるかもし

れませんが、ダビデはそのようなことで後悔はしませんでした。主の御心を行い、その結果を信頼して委ねることが、信仰者の力です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶ 16日 木曜

I サムエル

23:15 ダビデは、サウルが自分のいのちを狙って、戦いに出て来たのを見た。そのとき、ダビデはジフの荒野のホレシュにいた。

23:16 サウルの息子ヨナタンは、ホレシュのダビデのところに行って、神によってダビデをカづけた。

23:17 彼はダビデに言った。「恐れることはありません。父サウルの手が、あなたの身に及ぶことはないからです。あなたこそ、イスラエルの王となり、私はあなたの次に立つ者となるでしょう。父サウルも、そうなることを確かに知っているのです。」

23:18 二人は【主】の前で契約を結んだ。ダビデはホレシュにとどまり、ヨナタンは自分の家に帰った。

23:19 ジフ人たちは、ギブアのサウルのところによって行って、言った。「ダビデは私たちのところに隠れているのではありませんか。エシモン南、ハキラの丘のホレシュにある要害に。」

23:20 王よ。今、下って行こうとお思いでしたら、下って来てください。私たちが彼を王の手に引き渡します。」

23:21 サウルは言った。「【主】の祝福があなたがたにあるように。あなたがたが私のことを思ってくれたからだ。」

23:22 さあ行って、さらに確かめてくれ。彼が足を運ぶ場所と、だれがそこで彼を見たかを、よく調べてくれ。彼は非常に悪賢いとの評判だから。

23:23 彼が潜んでいる隠れ場所をみな、よく調べて、確かな知らせを持って、ここに戻って来てくれ。そのとき、私はあなたがたと一



緒に行く。彼がこの地にいるなら、ユダのすべての分団のうちから彼を捜し出す。」
23:24 彼らはサウルに先立ってジフへ行った。

一方、ダビデとその部下は、エシモン南のアラバにあるマオンの荒野にいた。

23:25 サウルとその部下はダビデを捜しに出て行った。このことがダビデに知らされたので、彼は岩場を下り、マオンの荒野にとどまった。サウルはこれを聞き、マオンの荒野でダビデを追った。

23:26 サウルは山の一方の側を進み、ダビデとその部下は山のもう一方の側を進んだ。ダビデは急いでサウルから逃れようとした。サウルとその部下が、ダビデとその部下を捕らえようと迫って来たとき、

23:27 一人の使者がサウルのもとに来て、「急いで来てください。ペリシテ人がこの国に襲いかかって来ました」と言った。

23:28 サウルはダビデを追うのをやめて帰り、ペリシテ人の方に向かった。こういうわけで、この場所は「仕切りの岩山」と呼ばれた。

23:29 ダビデはそこから上って行って、エン・ゲディの要害に住んだ。

ヨナタンは自分の後の王位も栄光もダビデのものになっても良いと思っていました。主がそのようにお決めになっていたからです。それゆえダビデの苦境に対して、心から心配して慰め励ましました。主を信じている私たちは互いにそのように励まし合いましょう。

主はご自身に従うダビデを守ってくださいました。仕切りの岩のような出来事は私たちにとても多くもたらされているのです。主に感謝し、信頼し、御心を行いましょう。主の愛ゆえに希望を持ちましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 17日 金曜

I サムエル



24:1 サウルがペリシテ人を追うのをやめて帰って来たとき、「ダビデが今、エン・ゲディの荒野にいます」と言って、彼に告げる者がいた。

24:2 サウルは、イスラエル全体から三千人の精鋭を選び抜いて、エエリムの岩の東に、ダビデとその部下を捜しに出かけた。

24:3 道の傍らにある羊の群れの囲い場に来ると、そこに洞穴があった。サウルは用をたすために中に入った。そのとき、ダビデとその部下は、その洞穴の奥の方に座っていた。

24:4 ダビデの部下はダビデに言った。「今日こそ、【主】があなた様に、『見よ、わたしはあなたの敵をあなたの手へ渡す。彼をあなたの良いと思うようにせよ』と言われた、その日です。」ダビデは立ち上がり、サウルの上着の裾を、こっそり切り取った。

24:5 後になってダビデは、サウルの上着の裾を切り取ったことについて心を痛めた。

24:6 彼は部下に言った。「私が【主】に逆らって、【主】に油注がれた方、私の主君に対して、そのようなことをして手を下すなど、絶対にあり得ないことだ。彼は【主】に油注がれた方なのだから。」

24:7 ダビデはこのことで部下を説き伏せ、彼らがサウルに襲いかかるのを許さなかった。サウルは、洞穴から出て道を歩いて行った。

24:8 ダビデも洞穴から出て行き、サウルのうしろから呼びかけ、「王よ」と言った。サウルがうしろを振り向くと、ダビデは地にひれ伏して、礼をした。

24:9 そしてダビデはサウルに言った。「なぜ、『ダビデがあなたに害を加えようとしてい

る』と言う人のことばに、耳を傾けられるのですか。

24:10 今日、【主】が洞穴で私の手にあなたをお渡しになったのを、あなたの目はご覧になったのです。ある者はあなたを殺すように言ったのですが、私は、あなたのことを思って、『私の主君に手を下すことはしない。あの方は【主】に油注がれた方だから』と言いました。

24:11 わが父よ。どうか、私の手にあるあなたの上着の裾をよくご覧ください。あなたの上着の裾を切り取りましたが、あなたを殺しはしませんでした。それによって、私の手に悪も背きもないことを、お分かりください。あなたに罪を犯していないのに、あなたは私のいのちを取ろうと狙っておられるのです。

24:12 どうか、【主】が私とあなたの間をさばき、【主】が私のために、あなたに報いられますように。しかし、私はあなたを手にかけることはいたしません。

24:13 昔のことわざにも『悪は悪者から出る』と言います。私はあなたを手にかけることはいたしません。

24:14 イスラエルの王はだれを追って出て来られたのですか。だれを追いかけておられるのですか。死んだ犬の後でしょうか。一匹の蚤の後でしょうか。

24:15 どうか【主】が、さばき人となって私とあなたの間をさばき、私の訴えを取り上げて擁護し、正しいさばきであなたの手から私を救ってくださいますように。」

ダビデはサウルの頑なな人間性や主への不信仰などを嫌というほど見せられてきましたが、ただ

「主に油そそがれた方」であるという点において、サウルに逆らうことをしませんでした。その信仰により、ダビデは神の方法により、神の時に勝利を得ることができたのです。自分の判断よりも主の御心を第一にする者は主は祝福せずにはおられません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 18日 土曜

I サムエル



24:16 ダビデがこれらのことばをサウルに語り終えたとき、サウルは「これはおまえの声なのか。わが子ダビデよ」と言った。サウルは声をあげて泣いた。

24:17 そしてダビデに言った。「おまえは私より正しい。私に良くしてくれたのに、私はおまえに悪い仕打ちをした。

24:18 私に良いことをしてくれたことを、今日、おまえは知らせてくれた。【主】が私をおまえの手に渡されたのに、私を殺さなかったのだから。

24:19 人が自分の敵を見つけたとき、その敵を無傷で去らせるだろうか。おまえが今日、私にしてくれたことの報いとして、【主】がおまえに幸いを与えられるように。

24:20 おまえが必ず王になり、おまえの手によってイスラエル王国が確立することを、私は今、確かに知った。

24:21 今、【主】にかけて私に誓ってくれ。私の後の子孫を断たず、私の名を父の家から消し去らないことを。」

24:22 ダビデはサウルに誓った。サウルは自分の家へ帰り、ダビデとその部下は要害へ上って行った。

「サウルは声をあげて泣いた」とあります。彼の感情的にはいつわりはありませんでしたが、後にはやはりまたダビデを殺そうと攻撃しました。感情は人の心を動かしますが、多くは一時的なものです。涙だけでその人の本質を判断するのは早計です。

サウルは涙ながらに正しいことを言っていますから、心から変わったかのように見えますが、実際には聖霊による変化ではなかったのです。一時の感情の変化で人が変わるものでもなく、また自分自身も

変わったのではないと知るべきです。本当の変化は聖霊によるものです。聖霊さまが働いて、聖霊様に従っているのかどうかを、吟味しましょう。聖霊様は神のことばである聖書によって、また聖書に沿って働かれます。要は主との交わりです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





25:1 サムエルは死んだ。全イスラエルは集まって、彼のために悼み悲しみ、ラマにある彼の家に葬った。ダビデは立ってパランの荒野に下って行った。

25:2 マオンに一人の人がいた。カルメルで事業をしていて、非常に裕福で、羊三千匹、やぎ千匹を持っていた。彼はカルメルで羊の毛の刈り取りをしていた。

25:3 この人の名はナバルといい、妻の名はアピガイルといった。この女は賢明で姿が美しかったが、夫は頑迷で行状が悪かった。彼はカレブ人であった。

25:4 ダビデは、ナバルがその羊の毛を刈っていることを荒野で聞いた。

25:5 ダビデは十人の若者を遣わし、その若者たちに言った。「カルメルへ上って行ってナバルのところに着いたら、私の名で彼に安否を尋ね、

25:6 わが同胞に、こう言いなさい。『あなたに平安がありますように。あなたの家に平安がありますように。また、あなたのすべてのものに平安がありますように。』

25:7 今、羊の毛を刈る者たちが、あなたのところにいるのを聞きました。あなたの羊飼いたちは、私たちと一緒にいましたが、彼らに恥をかかせたことはありませんでした。彼らがカルメルにいる間中、何か失われることもありませんでした。

25:8 あなたの若者たちに尋ねてみてください。彼らはそう報告するでしょう。ですから、私の若者たちに親切にしてやってください。祝いの日に来たのですから。どうか、しもべたちと、あなたの子ダビデに、何かあなたの手

もとにある物を与えてください。』」

25:9 ダビデの若者たちは行って、言われたとおりのことをダビデの名によってナバルに告げ、答えを待った。

25:10 ナバルはダビデの家来たちに答えて言った。「ダビデとは何者だ。エッサイの子とは何者だ。このごろは、主人のところから脱走する家来が多くなっている。

25:11 私のパンと水、それに羊の毛を刈り取る者たちのために屠った肉を取って、どこから来たかも分からない者どもに、くれてやらなければならないのか。」

25:12 ダビデの若者たちは、もと来た道を引き返し、戻って来て、これら一部始終をダビデに報告した。

25:13 ダビデは部下に「各自、自分の剣を帯びよ」と命じた。それで、みな剣を身に帯びた。ダビデも剣を帯びた。四百人ほどの者がダビデについて上って行き、二百人は荷物のところにとどまった。

ダビデのもとには困窮した者や不満を持った者たちが集まりました。通常そのような一群、特に兵士は略奪などで食いつながることが多いのですが、ダビデの群れは別でした。ダビデは神を信じているので、義を行い、また神に信頼していたからでしょう。むしろナバルの労働者たちを敵から守り、よくしてあげたのでした。

一方ナバルは多くの恩恵をダビデたちから受けたにも関わらず、ダビデが権力者でもなく自分の得にはならないと判断したのでしょう。彼はダビデを罵り、恩を仇で返しました。

ここでダビデの行動は、非常に人間的なもので、信仰的ではありませんでした。ナバルを攻撃しようとしたのです。ダビデに理由があったでしょうが、神様はそれをよしとはなさいません。(後にダビ

デは思いとどまります)

悪に対して悪で報いないことです。しかしダビデほどの人でもその誘惑があることを思いつつ、復讐心の強さを認めて警戒しましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

